

研究グループ交換委員会

委員長 田中 潤治

(大阪西北RC)

6月5日、国際ロータリー2660地区 岩田宙造Gの参加を得て、トルコより帰国しましたGSEチームの帰国報告と歓迎会が盛会に又大変楽しく開催されました。

チームメンバー4人と田中団長がトルコで研修した各人の成果と実際の体験が如何に自分の将来に役立つかについて楽しく話をしました。そしてトルコにおける数々のイベントに参加して生まれたトルコの人達との友情は決して忘れることは出来ないもので、彼らのホスピタリティーは想像を遙かに超えたものでした。またトルコ人の日本びいきには感動を覚えたとの報告を行い、トルコの現況とトルコの将来にも言及しました。参加されました岩田Gを始め各クラブのGSEの委員及びアルムニ会の代表の皆さん（総計40名）と親しく懇談し、GSEのプログラムが与える国際理解への影響が如何に大きいかについての体験談を、団員一人一人がそれぞれの立場で話し、好評でした。

メンバー一行は、5月7日19時55分トルコのサムソン市に到着、空港での多数のロータリアンの大歓迎を受け、目を白黒させているうちに、プログラムが始まりました。

土曜日でも日曜日もなくプログラムが組まれていて休む間もない毎日でしたが、ホストファミリーは毎日行動を共にしてくれました。消費税18%、ガソリン代1リッター200円もする国でも国民は希望に燃えているようです。失業者はいないし、国民の生活レベルは高いです。夏になると家族は涼しい海辺か高原のセカンドハウスに移動し、2ヶ月間はそこで暮らします。だから家には冷房機がありませんでした。

ロータリアンはかなりのエリート集団かと思ったら、地域の中小企業の社長さん達が多く、夜には酒を飲んで、仕事のことやら、将来のことについて語り、疲れたら踊りだします。彼らとの付き合いは本当に楽しく、また親しみやすい人達です。大学教授の給料が日本円で10万円から20万円くらいです。でも優雅に暮らしています。日本の2倍もある国で7千万人もいるのに鉄道がありません。移動は全てバスか自動車と飛行機です。日本では考えられないことが沢山あります。卓話にお呼び下さい。トルコについてのご質問にお答えします。

